

《景観まちづくりフォーラム終了後に寄せられた質疑・回答》

【質問内容1】 (品川区ご担当者様宛)

品川は東京、横浜の中間にあるので東京都心（例えば丸の内）、横浜都心（例えばみなとみらい・関内）と品川区を比較した時、東京都心や横浜都心に負けない都市景観を実現するためには何が必要でしょうか？そのために、建築士や建築士会に期待することがあれば、ご教示いただけると幸いです。

※「丸の内」は大企業がエリアをトータルデザインして（エリアマネジメント）良好な都市景観を創出している典型例、「横浜」は市役所が都市デザインを重視し、行政の関与で良好な都市景観を創出している典型例ととらえました。

(東京建築士会まちづくり委員会委員長 青木伊知郎)

(回答)

品川区には、様々な特色のある街並みがあり、地域の特性に応じた景観まちづくりを進めております。旧東海道品川宿での歴史と文化を活かした街並みづくりや、水辺を代表する天王洲では、地域が主体となってアートをテーマとした個性ある街並みづくりを行なっております。また、再開発が進む大崎地区では、エリアマネジメントが発足されており、地域全体で協調し、個性的な都市景観づくりを行なっており、さらに、武蔵小山では、中心となる商店街の賑わい、やすらぎ、憩いなど地域が目指す街並みづくりが進められております。

今後もこうした地域の歴史、熱意を受け、行政が後押しし、地域固有の景観づくりを地域と一体となって進めていきたいと考えております。建築士の皆様や建築士会様には、景観まちづくりの主旨をご理解いただき、行政と地域との橋渡しとなって、ご協力いただければと思っております。今後も品川区の景観まちづくりにご理解、ご協力のほどよろしくお願いたします。

(品川区環境部都市計画課景観担当)

【質問内容2】 (志村先生宛)

お話の最初に超高層の写真を何枚か見せていただいたのですが、どこか全く分かりませんでした。早い話、見上げて歩く事はないのです。街は歩いて感じるものとなれば、もっと低層部の広がりや作り方があると。大規模開発の広大な非人間的な広場？の創り方が変わっていくのでは？今の東京の超高層が建築的な、ではなく不動産の経済原理で動くとき、巨大化は止められないにしても、街路空間、街路景観の作り方があるとは思いませんか。

(JIA メンテナンス部会 城南地域 近藤一郎)

(回答)

確かに視覚的な街路景観は大切ですが、講演でお話しさせていただきました通り、「景観とは、人間をとりまく環境のながめであり、人々の暮らしの積み重ねや地域自治によって成立していることから、持続可能なまちづくりや地域づくりの礎となる。」と考えております。

(志村秀明)

【質問内容3】 (伊與久先生宛)

景観アドバイザー相談の中で、特に印象的に残った物件・苦勞した相談など、具体的な話がありましたら紹介していただきたい。

(無記名)

(回答)

具体例となりますと景観アドバイザーの守秘義務に関わりますのでご容赦くださいませ。苦勞と言う事について、これは窓口当番の度、毎回感じております。何者でも無い私如きが同業者様の仕事に対して意見をするのでありますから。相談者様に対して失礼の無いよう言葉を選びながらも、まちの思いは伝えたい。ストレスのかかる業務です。特に手強い物件ではアドバイザー間の情報共有を徹底してチーム戦で臨んでいます。窓口相談 5 回超なんて例も多々ありました。しかし、その甲斐あってアドバイザー相談を経たケースでは先日ご紹介した「まちなみ評価点」の向上が見られます。

(伊與久なつむ)

【その他ご自由にご記入ください】

幅広い景観の話題が興味を掻き立てられました。視点をちょっと変えて景観のフォーラムを続けてほしい。
(JIA メンテナンス部会 城南地域 近藤一郎)

江戸時代にこだわらず、長い歴史、史学に基づいた景観資源による品川全体のまちづくりの話も聞きたい。
(無記名)

皆様ありがとうございます。フォーラムの主旨にあった話が出来たか心配で、的外れなことをいってしまったのではと反省しております。自分としては品川駅高輪口の再開発に川崎や横浜と同じで人間味のないものだとやや否定的でしたが、今回プレゼン資料を作成中、港区品川から品川区品川に入った時、長年なれしたしんできた住環境がそこにあって街歩きだったら、そこに癒しを感じるのではないか？夜間人口の多少で街づくりは違って当然で、高輪口の再開発を否定せずに品川宿の街並みと対比して楽しむのも面白いなと考え直しました。今回フォーラムに参加して景観を考える機会を与えて頂いて感謝しております。

(伊東 進)

ありがとうございました。とても楽しかったです。建築士会と一層の連携がとれれば、とてもいいなおもいました！歴史の町まちづくり連携のネットワークにもつながります。
(田邊寛子)

皆様、年末のお忙しい中、景観まちづくりフォーラムにご参加いただき、ありがとうございます

ございました。それから、パネラーの方々からは様々な視点で品川の景観についてのお話を頂き、とても参考になりました。特に、志村先生の最近のタワーマンションのコピペ建築のお話は全く同感です。デベロッパー主体のタワーマンションは、建築家不在で地域性に対する配慮（デザイン力）がありません。以前に原広司先生が「世界の美しいまちの景観は“かたち”（様式）がそろっているか、素材（色彩も含む）がそろっていることである」と言ったことを思い出しました（間違いだったらごめんなさい）。

建築は昔からその地域で大量、かつ、持続的に調達できる素材（石材、煉瓦、木材、漆喰、瓦、萱など）で作られてきました。様式をそろえることが困難でしたら、せめて、その地域の歴史・文化にふさわしい素材を再認識し、地域の景観資源として共有していくことが肝要ではないでしょうか。 (塩原達郎)